

令和5年度第3回松野町地域公共交通会議

期 日：令和5年11月1日(水)10:30～

場 所：松野町役場 庁舎2階 議場兼大会議室

1 開会あいさつ

2 報告事項

報告第1号 第2回松野町地域公共交通会議での意見の対応について

報告第2号 交通事業者等へのヒアリング結果について

報告第3号 公共交通の問題点・課題の整理について

報告第4号 上位・関連計画及びまちづくりの方向性の整理について

報告第5号 松野町公共交通関係事業の状況について

5 閉会

松野町地域公共交通会議委員名簿 (R5.11.1時点)

区 分		氏 名	摘 要
1号	松野町長が指名する者	八十島 温夫	松野町副町長
2号	一般乗合旅客自動車運送事業者	田中 勝久	宇和島自動車(株) 営業課長
3号	一般貸切(乗用)旅客自動車運送事業者	岡 力	(有)松野タクシー
		長谷川 喜之	伊予吉野生タクシー(有)
4号	一般社団法人愛媛県バス協会	松本 真一	専務理事
5号	住民の代表者	井上 六廣	松丸区長
		岡村 勝	延野々区長
		中脇 優	豊岡後区長
		中湯 廣和	豊岡前区長
		須田 正文	富岡区長
		濱田 章二	上家地区長
		竹内 義富	目黒区長
		長谷 信昭	吉野区長
		大内 義昭	蕨生区長
		西村 正人	奥野川区長
6号	国土交通省四国運輸局愛媛運輸支局長が指名する者	一色 利彦	首席運輸企画専門官
		菊池 勝二	首席運輸企画専門官
7号	一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体	高瀬 康文	宇和島自動車労働組合執行委員長
8号	道路管理者が指名する者	二宮 祐司	愛媛県南予地方局建設部建設企画課長
		谷口 健二	松野町建設環境課長
9号	宇和島警察署長が指名する者	小倉 恭信	宇和島警察署交通課長
10号	鉄道事業者	窪 仁志	J R 四国愛媛企画部長
11号	愛媛県南予地方局長が指名する者	須山 広周	南予地方局地域産業振興部地域政策課長
12号	学識経験者	松村 暢彦	愛媛大学社会共創学部教授
13号	松野町保健福祉課長	瀧本 美樹	医療・福祉の送迎関係
14号	松野町教育課長	森本 秀行	スクールバス関係
15号	松野町総務課長	友岡 純	コミュニティバスの運行管理責任者

事務局

松野町ふるさと創生課	課 長	井上 靖
松野町ふるさと創生課	主 事	吉原 宏樹

令和5年度第3回松野町地域公共交通会議

資料

資料1（報告第1号関係）

「第2回松野町地域公共交通会議での意見の対応について」……………1

資料2（報告第2号関係）

「交通事業者等へのヒアリング結果について」……………7

資料3（報告第3号関係）

「公共交通の問題点・課題の整理について」……………12

資料4（報告第4号関係）

「上位・関連計画及びまちづくりの方向性の整理について」……………14

資料5（報告第5号関係）

「松野町公共交通関係事業の状況について」……………19

令和5年11月1日

ふるさと創生課

第2回松野町地域公共交通会議での意見の対応について

前回の第2回松野町地域公共交通会議（R5. 8. 30）において、委員より意見頂いた内容を踏まえ、データ等を整理しました。

1. 公共交通に関する収支

1.1. 収入

公共交通に関する収入は減少傾向であり、2013年度の約420万円から2022年度は約360万円となりました。

2020年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が減少し、運賃収入（コミバス関係）が2020年度は前年度の約半分となりました。

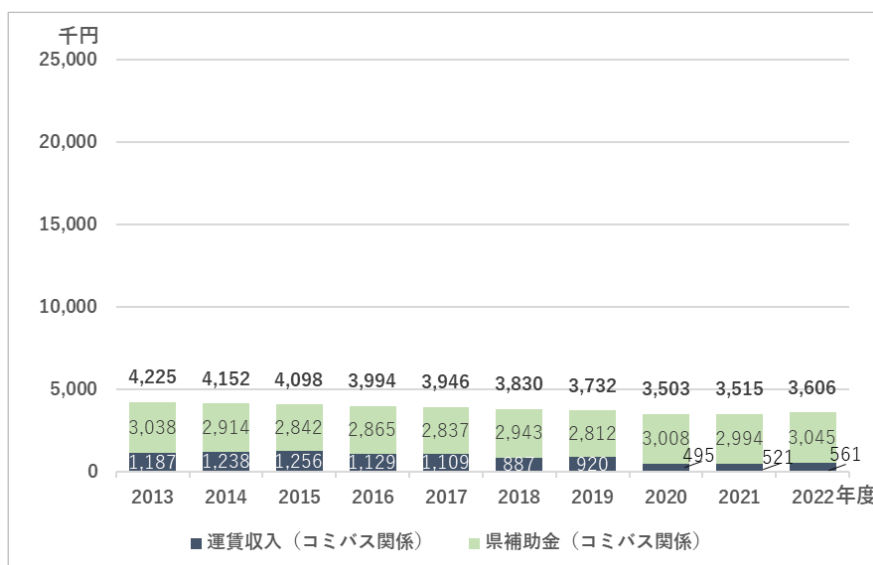


図1 公共交通の収入

1.2. 支出

公共交通に関する支出は増加傾向を示しています。なお、2018年度は平成30年7月豪雨災害により一時的に増加しました。

各年度ともに、コミバス経費による支出が最も多くなっています。

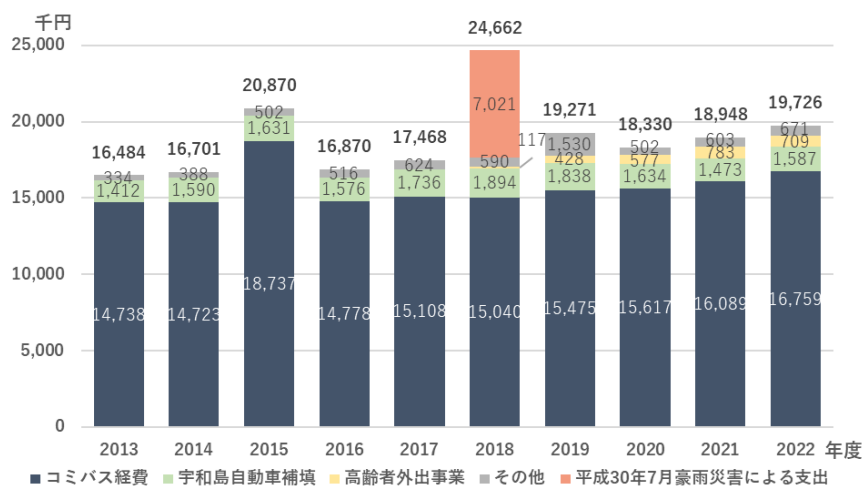


図2 公共交通の支出

1.3. 収支の比較

公共交通の収支を比較すると、支出が収入を上回っており、収支の差は、2013年度の約1,200万円から2022年度は1,600万円と拡大しています。

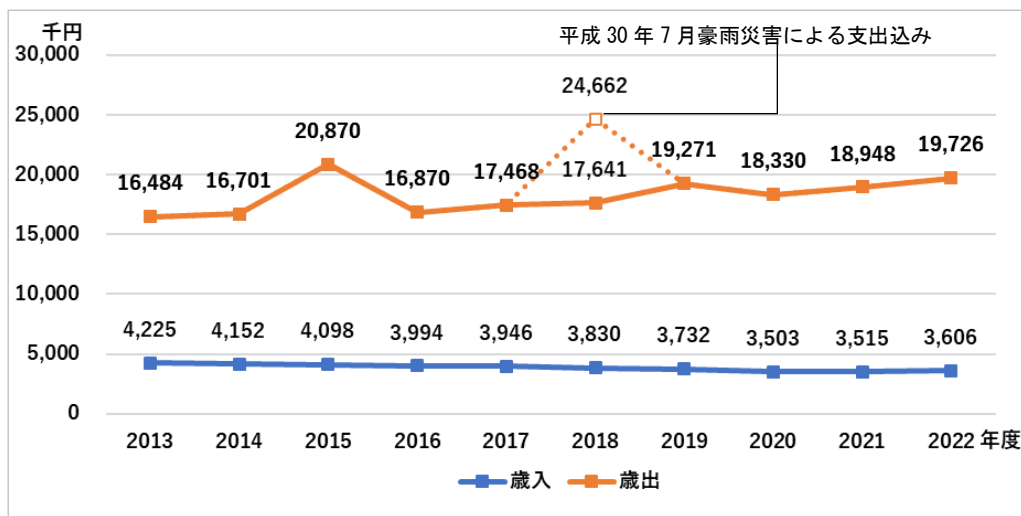
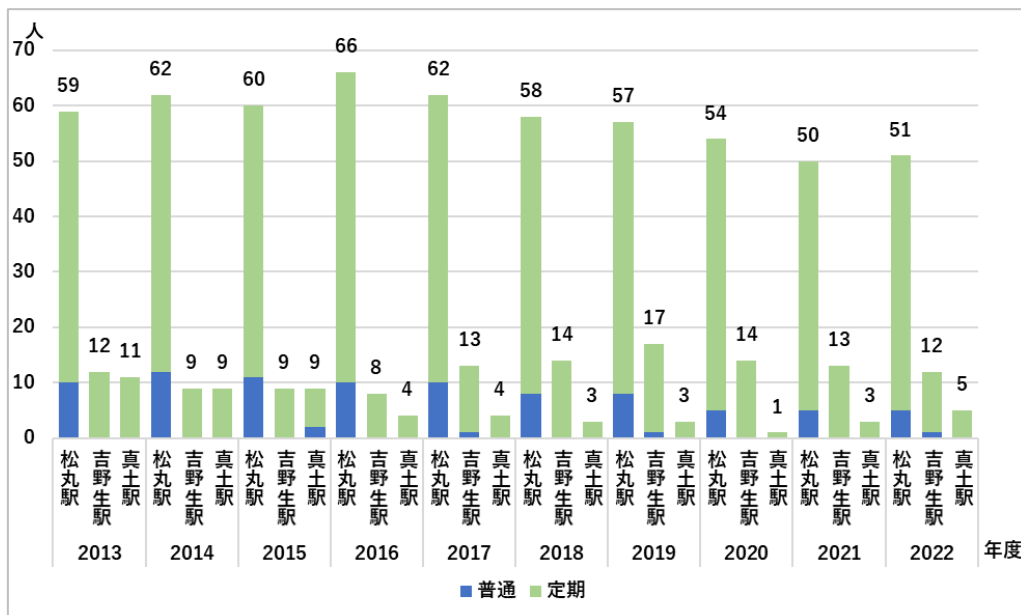


図 3 収支の比較

2. 鉄道の利用者別（定期、普通）の推移

松野町内の鉄道の各駅において、1日平均利用者数を乗車券（定期、普通）別に見ると、全ての駅において、定期券での利用が多い状況です。

松丸駅での定期券の利用者が最も多くなっています。



出典：四国旅客鉄道

図 4 鉄道駅の利用者数

3. 住民アンケート調査結果（追加集計）

3.1. クロス集計の項目

クロス集計の項目			集計のねらい
「自家用車の有無」	×	「出かける頻度」	・自家用車の有無により、出かける頻度が変わるのかどうか。
「職業」	×	「出かける主な目的」	・職業の違いにより、公共交通の利用の違いがあるのかどうか。
	×	「出かける頻度」	
	×	「目的地までの移動手段」	

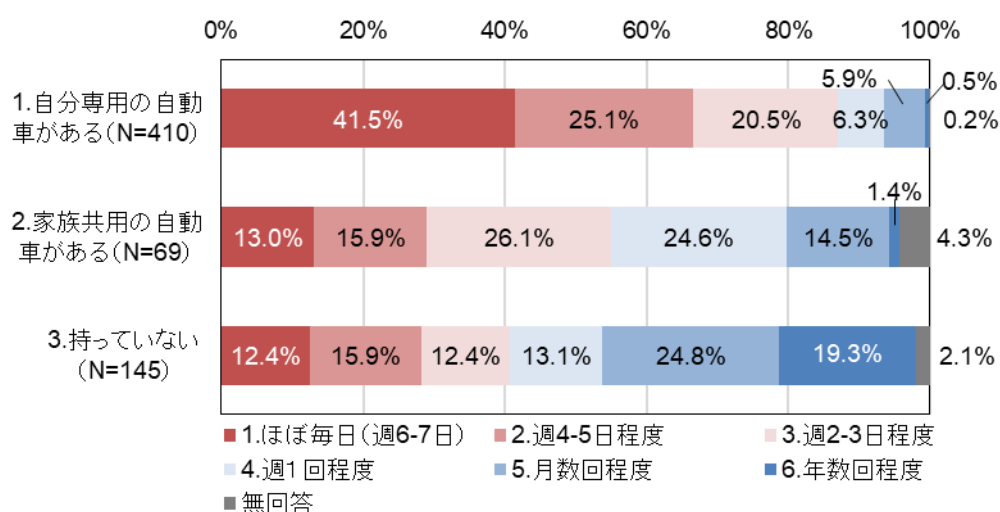
3.2. クロス集計の結果

3.2.1. 「自家用車の有無」 × 「出かける頻度」

「1. 自分専用の自動車がある」と答えた方の出かける頻度は、「1. ほぼ毎日（週6-7日）」が41.5%と最も高いです。

一方、「2. 家族共有の自動車がある」方の出かける頻度は「3. 週2-3日程度」が26.1%と高く、「3. 持っていない」方は「5. 月数回程度」が24.8%と高いです。

これは、自分専用の自動車を持っている方は出かける頻度が高く、持っていない方は出かける頻度が低いことから、自動車の有無により出かける頻度の差が生じていることが考えられます。

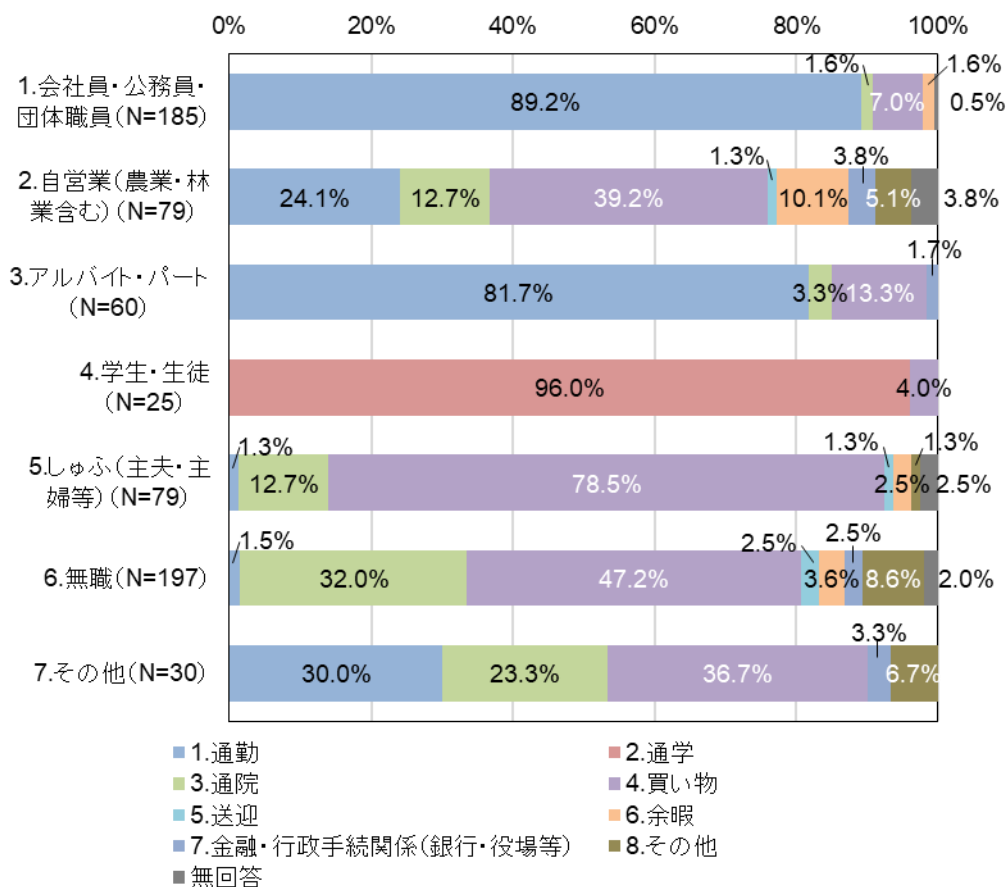


3.2.2. 「職業別」×「目的」・「頻度」・「移動手段」

(1) 「職業別」×「出かける主な目的」

「1. 会社員・公務員・団体職員」と、「3. アルバイト・パート」の出かける主な目的は、ともに「1. 通勤」で 80%以上と高なっており、「2. 学生・生徒」は「2. 通学」が 96.0%となっています。

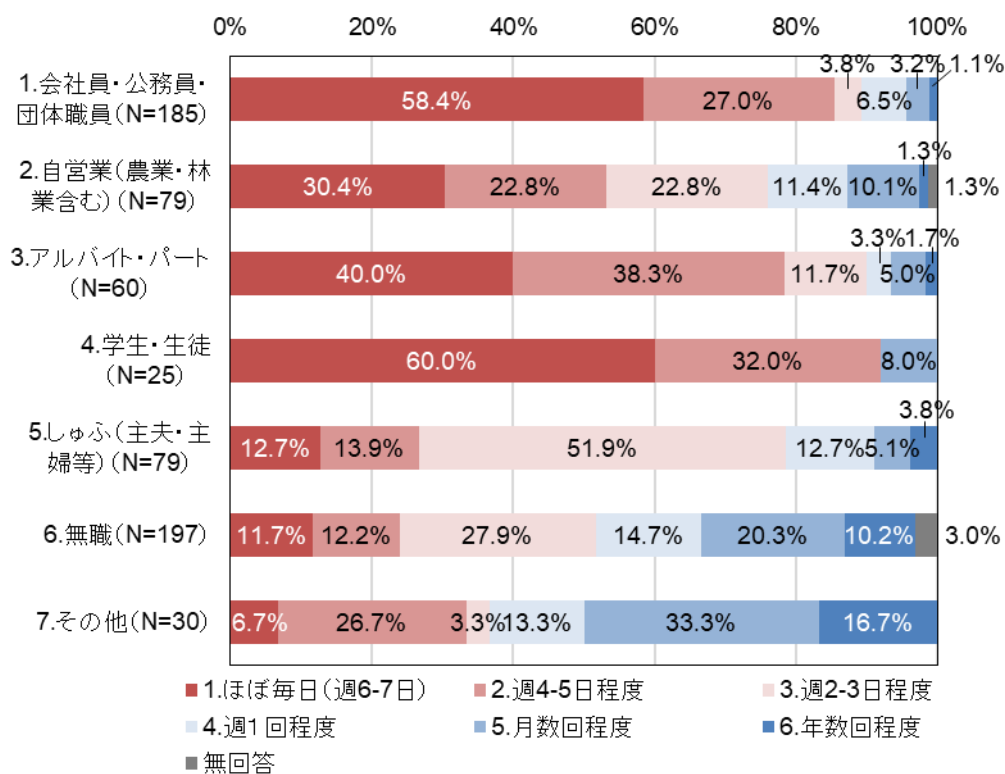
「5. しゅふ（主夫・主婦等）」は、「4. 買い物」が 78.5%と最も高くなっています。



(2) 「職業別」×「出かける頻度」

「1. 会社員・公務員・団体職員」は「1. ほぼ毎日（週6-7日）」と「2. 週4-5日程度」の合計が85.4%となっています。

他の職業別における頻度の割合を見ると、「3. アルバイト・パート」は78.3%、「4. 学生・生徒」は92.0%と約8割程度か、8割を超えており、他の職業と比べても、出かける頻度が高いです。

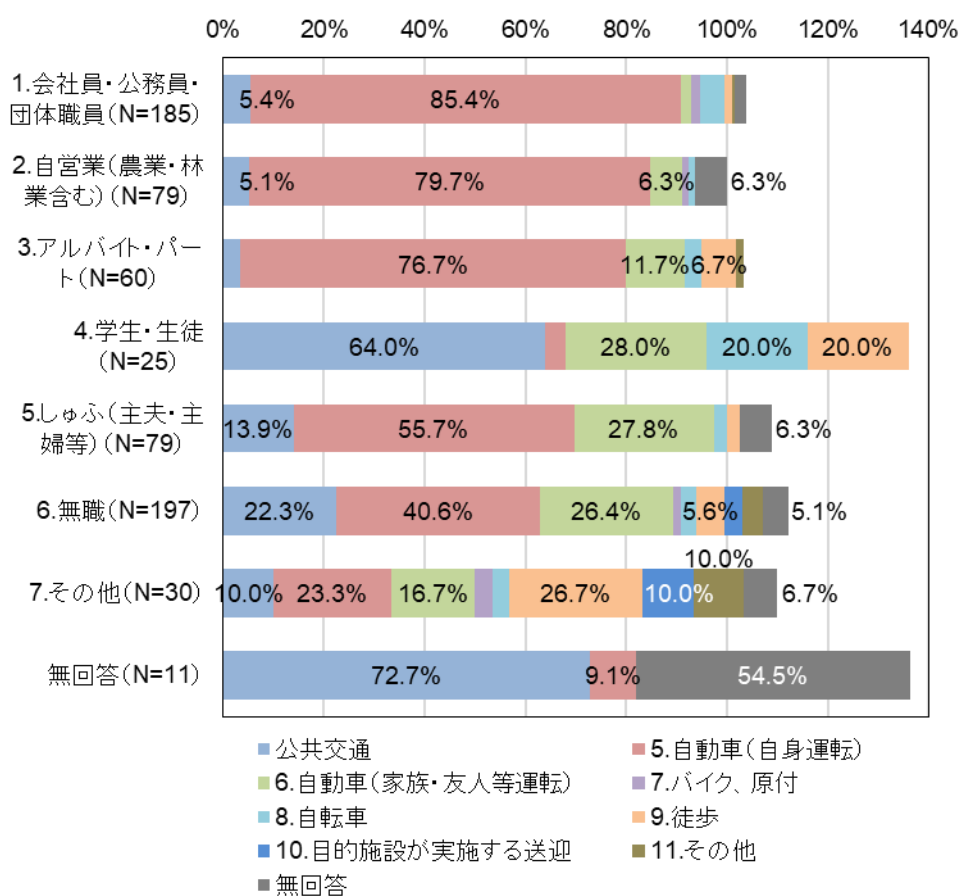


(3) 「職業別」×「目的地までの移動手段」

「1. 会社員・公務員・団体職員」の目的地までの移動手段は、「5. 自動車（自身運転）」が最も高く 85.4%となっています。

他の職業別における自動車（自身運転）の割合を見ると、「2. 自営業（農業・林業）」が 79.7%、「3. アルバイト・パート」が 76.7%と、高い傾向にあります。

「公共交通」と回答した職業は、「4. 学生・生徒」が 64.0%と他の職業と比べ多く、その他に、「5. しゅふ（主夫・主婦等）」や「6. 無職」が多い状況です。



※「公共交通」の値は、選択肢の「1. JR 四国（予土線）」、「2. 宇和島自動車（バス）」、「3. タクシー」、「4. コミュニティバス」を合わせた値。

交通事業者等へのヒアリング結果

(概要)

1. ヒアリングの目的

町内で交通サービスを提供する交通事業者や関係者に対してヒアリングを行い、公共交通に関して問題点、課題、改善ニーズ等を把握する。

2. 実施方法

ヒアリングシートの配布・回収 又は、対面ヒアリング

3. 実施時期

令和5年9月20日～10月17日の約3週間

4. 対象者

- ・交通事業者（鉄道、バス、タクシー）
- ・庁内関係部署（福祉関係、教育関係、観光関係）
- ・観光関係者（宿泊施設、アウトドア事業者）
- ・その他（道の駅、中央診療所）

5. ヒアリング対象者・項目・内容

ヒアリング対象者とヒアリング項目・内容を以下に示す。

ヒアリング対象者			ヒアリング項目・内容
大分類	小分類	事業者	
交通事業者	鉄道	・四国旅客鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の公共交通に対する意見やニーズ ・現在の公共交通の問題と今後想定される課題 ・課題の解決に向けた取組み ・運営や経営に関する将来の展望 ・交通事業者から見た公共交通に対する意見や要望等
	バス	・宇和島自動車	
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・松野タクシー ・伊予吉野生タクシー 	
庁内関係部署	福祉関係	・保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・所管施設等の利用者の公共交通の利用状況 ・所管施設等の利用者の公共交通に対する意見やニーズ ・公共交通が廃止された場合の影響・問題点 ・各課から見た公共交通に対する意見や要望等
	教育関係	・教育課	
	観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと創生課(観光担当) 	
観光関係者	宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ・(株) サン・クレア(森の国ホテル、水際のロッジ) ・あざみ野 ・四季の粹 ・わらび ・おんごく ・晴れたらいいね！！ ・ゲストハウス夢楽 ・絵の本 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客(外国人含む)の状況 ・観光客の公共交通の利用状況 ・観光客の公共交通に対する意見やニーズ ・観光関係者から見た公共交通に対する意見・要望等
	アウトドア事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・フォレストキャニオン ・グッドリバー 	
主要施設	道の駅	・道の駅虹の森公園まつの	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者の公共交通の利用状況 ・施設利用者の公共交通に対する意見やニーズ ・施設側から見た公共交通に対する意見・要望等
	医療施設	・中央診療所	

6. ヒアリング結果

ヒアリング結果を以下に示す。

分類	結果概要（案）
交通事業者 ※4 者	<p>○利用者の公共交通に対する意見やニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行便数や設備に関する意見がある。 等 <p>○現在の公共交通の問題と今後想定される課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予土線の存続のため、関係者と協議をしていきたい。 ・乗務員等の担い手確保や高齢化が課題である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で減少していたインバウンドが回復してきており、その対応が課題である。 ・松野町からの委託業務で売上確保ができており、なくなった場合の売上確保が課題である。 等 <p>○課題の解決に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予土線の観光列車の導入やアプリ導入等の利用促進策を実施している。 ・モーダルミックス等で交通事業者が連携し、利便性の向上を図る必要がある。 ・キャッシュレス化の導入等により利用促進策を検討している。等 <p>○運営や経営に関する将来の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5 年推進計画 2021～2025」に基づき、地域と一体になって利便性向上や利用促進に取り組んでいる。 ・生活路線等の維持は可能な限り行っていきたい。 等 <p>○交通事業者から見た公共交通に対する意見や要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者が有機的に連携した移動サービスの提供が重要である。 ・地域の実情にあった公共交通を希望する。 等
庁内関係部署 ※3 者	<p>○所管施設等の利用者の公共交通の利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健センターへの来庁はコミバスを使う方は少ない。【福祉部局】 ・健康診断や子供の育児相談の方は、時間帯を決めているため、コミバスのダイヤと来庁時間があわない。【福祉部局】 ・小中学校でスクールバスとコミュニティバスを使う生徒・児童は全体の約 1 割程度である。【教育部局】 ・今後は生徒数・児童数は減少していく。【教育部局】 ・観光施設には自家用車での利用が多く、公共交通での利用は少ない。【観光部局】 <p>○所管施設等の利用者の公共交通に対する意見やニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来庁は自家用車が多く、公共交通の意見は少ないが、コミバスは来庁者の希望する時間帯に便をお願いしたい【福祉部局】 ・中学校の部活動の帰宅で、コミバスに間に合わないことがあり、その場合は、保護者が送迎している。【教育部局】

分類	結果概要（案）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR 及びバスの本数が少なく、観光施設へのアクセスが不便であるとの意見はある。特に、滑床溪谷に行きたい利用者で、松丸駅からの移動が不便だとの意見がある。【観光部局】 ○公共交通が廃止された場合の影響・問題点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 松野町での生活の維持ができなくなる人も出てくる可能性があり、町外へ出ざるを得ないことが懸念される。【福祉部局】 ・ スクールバスの増便対応が必要になってくるが、財政負担、運転業務に関する受託者の確保等が課題になると考えられる。【教育部局】 ・ 高齢者や外国人観光客の観光客が減少する。【観光部局】 ○各課から見た公共交通に対する意見や要望等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 免許を返納する年代になって、公共交通を自分のこととして捉えることになり、それまでの意識変更が必要と思われる。【福祉部局】 ・ スクールバスの増便対応が必要になってくるが、財政負担、運転業務に関する受託者の確保等が課題になると考えられる。【教育部局】 ・ 観光客に対する JR 駅やバス停からの移動手段の充実が必要であると考えられる。【観光部局】
<p>観光関係者 ※10 者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○観光客（外国人含む）の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響後、観光客は戻りつつある。 ・ 外国人はコロナ前後で、少ない状況である。等 ○観光客の公共交通の利用状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客は基本、自家用車やレンタカーで訪れる。 ・ 一部、公共交通を使う方もいる。等 ○観光客の公共交通に対する意見やニーズ <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用できる公共交通があれば、利用したいというニーズはあると思われる。等 ○観光関係者から見た公共交通に対する意見・要望等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日曜、祝祭日に何かイベントがある時はバスを走らせたかどうか。等
<p>その他 （道の駅、中央診療所） ※2 者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○施設利用者の公共交通の利用状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 殆どの方が車で来店している。公共交通を利用する来店者はかなり少ない。【道の駅】 ・ 自家用車で通院者が多く、コミバスやタクシーでの通院者は約 1 割程度である。コミバス利用者の殆どが高齢者である。【中央診療所】 ○施設利用者の公共交通に対する意見やニーズ <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通は、便を逃すと次の便までの時間がかかり困るといった意見がある。【道の駅】 ・ コミバスを利用したいが時間が合わないので利用していないと思われる。希望は午前中で診察が終わり、家に帰りたいと思われる。【中央診療所】 ○施設側から見た公共交通に対する意見・要望等

分類	結果概要（案）
	<ul style="list-style-type: none">・公共交通を使用しないと生活できないような方のニーズに合った公共交通ができればいいと思う。【道の駅】・実証実験中のオンデマンド交通は、考え方はいいと思ったが、高齢者には、予約等で使いづらい点があると思われる。【中央診療所】

公共交通の問題点・課題の整理

(たたき案)

本町の地域の概況、公共交通の現状整理、過年度のアンケート整理及びまちづくりの方向性を踏まえ、公共交通の問題点及び課題を以下に整理した。

1. 公共交通の問題点

1.1. 住民ニーズへの対応が不足している

- ・コミュニティバスを主に利用されている地区において、利用したい時間帯にバスが運行されていないとの意見がある。
- ・人口集積地において、公共交通空白地（延野々、豊岡等）が存在している。

1.2. 公共交通のすみ分けが曖昧である

- ・鉄道、路線バス、コミュニティバスでの、公共交通のすみ分けがされていない。
- ・日常の移動や通勤・通学の目的に応じた公共交通の考えが整理されていない。
- ・JR 予土線は利用者が減少しているため、沿線自治体において、今後の利用促進施策が検討されている。

1.3. 利用者の減少に伴い財政負担が増加している

- ・コミュニティバスの利用者数がコロナ禍により悪化している。
- ・公共交通の支出は増加傾向を示しており、2022年度の支出と収入の差は、1,600万円である。
- ・町内のタクシー運転者が不足している。

2. 公共交通の課題

2.1. 主要幹線を確保する対応が不可欠

- ・第5次松野町総合計画でも記載されている通り、JR 予土線や路線バスの鬼北線の維持存続が、町のまちづくりには必要不可欠であるため、公共交通のすみ分けを行い、利用促進に努める。
- ・住民アンケート結果等から、松野町住民の生活圈域（通勤・通学、買い物、通勤等）は町内だけでなく、町外も圏域となっていることから、主要幹線を確保するためには、宇和島市や鬼北町等と連携して検討する必要がある。

2.2. 地区ごとに目的に応じた移動手手段の確保

- ・町の人口集積地とそれ以外の地域において、公共交通のすみ分けを行い、目的に応じた移動手手段を確保する。

2.3. 公共交通を支える仕組みづくり

- ・タクシー運転手の確保等を民間との連携や地域主導による移動の確保など、地域と行政が連携した公共交通を支える取組みが必要である。

上位・関連計画及びまちづくりの方向性の整理

本計画の上位・関連計画として、「第5次松野町総合計画」や、「第2次森の国松野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」、愛媛県が策定した「愛媛県地域公共交通網形成計画」が挙げられます。これら上位・関連計画におけるまちづくりの方向性と、公共交通の位置づけを以下に示します。

1. 第5次松野町総合計画

まちづくりの方向性	
将来像	誇りと愛着の持てる「森の国」協働のまちづくり ～みんなで作ろう明るい未来～
基本目標	<p>～ 6 つ の 基 本 目 標 ～</p> <ol style="list-style-type: none">1 【環境・防災】緑豊かで快適なまちづくり2 【保健・医療・福祉】いのち育む健やかなふるさとづくり3 【産業・交流】稼ぐ基盤を創りだす産業おこし4 【教育・文化】学び合い未来へ紡ぐ人づくり5 【自治・行政】笑顔で支え合い活躍できる舞台づくり6 【定住促進】ともに暮らす森の国の里づくり

公共交通の位置づけ	
■目指す姿	・コミュニティバスやJR、民間バスなど住民生活に直結する公共交通機関の維持確保のため利用促進に努めるほか、持続可能な公共交通の在り方を検討します。
■施策の方向性	・四国循環線の一部であるJR予土線の存続に当たっては、県・沿線市町と連携を図りながら活動を推進するとともに、地域住民と協力し利用促進に取り組みます。

公共交通の位置づけ

- ・鉄道車両が清流四万十川沿いを運行するロケーションを活かしたイベントやキャンペーンを実施して観光客の増加を図りながら、公共交通の利用へ繋げます。
- ・オンデマンド交通の導入などコミュニティバスの効率的な運行方法への見直しによる持続可能な地域公共交通体制を検討します。
- ・高齢者や障がい者が利用しやすいように、コミュニティバスのバリアフリー化に努めます。

■留意するSDGsのゴールと考え方

●ゴール : 「11. 住み続けられるまちづくりを」

●ターゲット/考え方

- ・脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供します。

2. 第2次森の国松野町まち・ひと・しごと創生総合戦略

まちづくりの方向性

【基本目標1】生活環境を向上し、転入者の増加と転出者の抑制を図る

- ①豊かな自然に恵まれた生活環境を守るとともに、生活利便性の向上を図る。
- ②転入者の増加を促す土地や建物を確保し、受け入れ環境の向上を図る。

【基本目標2】子育て・教育環境を強化し、子育て世代の増加を図る

- ①子育て支援の充実により、子どもを産みやすく、育てやすい環境づくりを推進する。
- ②県内でも学力の高い子どもを育てる教育環境のPRと、子どもの学習環境の更なる向上を図る。

【基本目標3】本町のブランド化を推進し、関係人口と交流人口を拡大する

- ①本町が持つ人的ネットワークの拡充を進め、連携・協力して本町の知名度向上を図る。
- ②宿泊拠点の拡充を図り、通過型観光地から滞在型観光地への転換を目指した取組を推進する。
- ③交流拠点の整備・充実を進めるとともに、他地域の団体等との連携強化や情報発信機能を強化する。

【基本目標4】産業を活性化し、就業人口の増加を図る

- ①農業用地の流動化を促進し、新規就農者の増加を図る。
- ②本町の地場産品の生産と流通対策を強化し、高付加価値農業の推進を図る。
- ③起業家への支援を強化し、本町ならではの事業起こしを促進・支援する。

3. 愛媛県地域公共交通網形成計画

公共交通の方針

基本方針 1 東予地域、中予地域、南予地域の地域間を強く結ぶ 広域交通軸の形成

愛媛県の経済・行政・高等教育機関・交通拠点が集積する中予地域（松山市）と東予地域、南予地域との間の地域間移動のニーズに対応できる強靱な交通軸を形成し、東予地域、中予地域、南予地域の各地域間及び県外への円滑な広域移動を実現する。

基本方針 2 生活圏域を円滑に移動できる地域内交通網の形成

住民の生活圏域内にある拠点都市や行政機関が位置する庁舎等へ円滑にアクセス出来る地域内交通網を形成し、各地域内での円滑な移動を実現する。

基本方針 3 居住地区でのきめ細かな移動を実現させる 支線（フィーダー路線）との乗り継ぎ拠点の形成

各地域内において、幹線から支線へ、支線から支線へ乗り継ぐことができる環境を整備し、誰もが自分自身で、居住地区の病院、商業・レクリエーション施設等に移動できる交通網の乗り継ぎ拠点を形成する。

**東予地域、中予地域、南予地域の各地域を結び、
愛媛県の生活、経済、地域交流の基盤となる
公共交通ネットワークを構築**

公共交通の目標

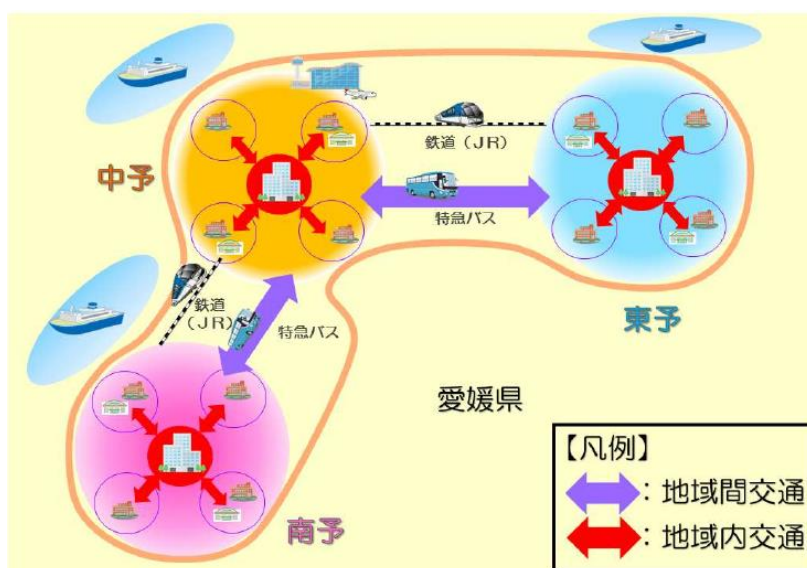
計画目標 1

- ・まちづくりと連携した「軸」と「拠点」の設定による地域住民の円滑な移動を支える公共交通ネットワークの構築



計画目標 2

- ・広域交通と地域間・地域内交通の連絡性向上による切れ目ない県内交通ネットワークの構築



計画目標 3

- ・国内・海外からの観光ニーズに対応した公共交通利用環境の整備

計画目標 4

- ・持続可能な公共交通ネットワークの形成に向けた運行水準の適正化

計画目標 5

- ・新たな公共交通利用者の確保に向けた利用促進策の実施

報告第5号 松野町公共交通関係事業の状況について

松野町コミュニティバスの運行状況

1 松野町コミュニティバスの概要

運行主体：松野町（運行委託先：松野町旅客運送業組合）

運行開始：平成16年11月

運行路線：目黒循環線（中央診療所 ⇄ 目黒方面） [路線延長：30.7km]

蕨奥循環線（中央診療所 ⇄ 蕨生・奥野川方面） [路線延長：27.8km]

葛川線（松丸 ⇄ 葛川方面） [路線延長：12.0km]

上家地線（中央診療所 ⇄ 上家地方面） [路線延長：20.8km]

運行日：月曜日～土曜日（ただし祝祭日、年末年始運休）

運行便数：目黒循環線及び蕨奥循環線 1日5便

上家地線 1日3便

葛川線 1日2便

運賃：100円（ただし遠距離通学生、利用者に同伴する乳幼児1名、障がい者は無料）

車両：14人乗りバス2台、10人乗り普通自動車1台

2 乗車人数の推移

(人)

路線	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目黒循環線		5,220	2,552	2,512	2,587
蕨奥循環線		3,933	2,614	2,533	2,350	1,196
葛川線		838	636	848	945	523
上家地線		1,924	1,206	1,565	1,683	856
合計		11,915	7,008	7,458	7,565	3,907

※令和5年度は9月末時点

3 収支状況

(円)

収支	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	歳入	使用料	919,700	495,100	521,100	561,212
補助金		2,812,000	3,008,000	2,994,000	3,045,000	0
		3,731,700	3,503,100	3,515,100	3,606,212	278,900
歳出	委託料	12,709,211	12,972,000	12,972,000	12,972,000	6,486,000
	維持管理費	2,765,627	2,645,116	3,117,072	3,787,114	1,655,064
		15,474,838	15,617,116	16,089,072	16,759,114	8,141,064
歳出－歳入 (一般会計)		11,743,138	12,114,016	12,573,972	13,152,902	7,862,164

※令和5年度は9月末時点

4 令和5年度曜日別利用者数（4月～9月末）

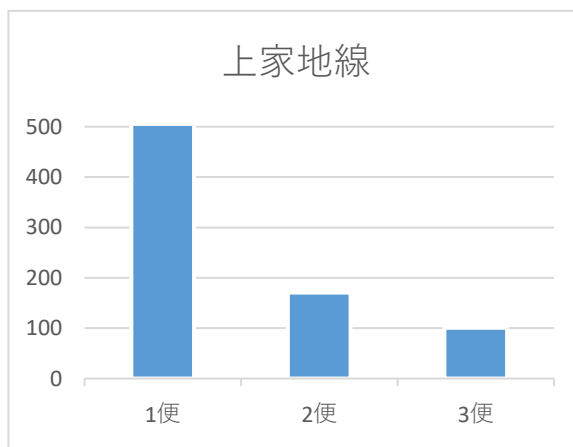
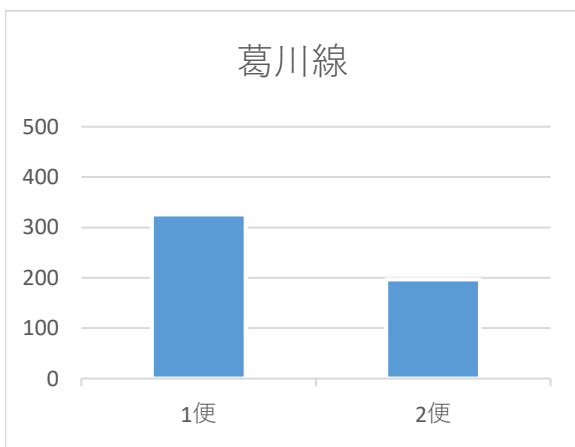
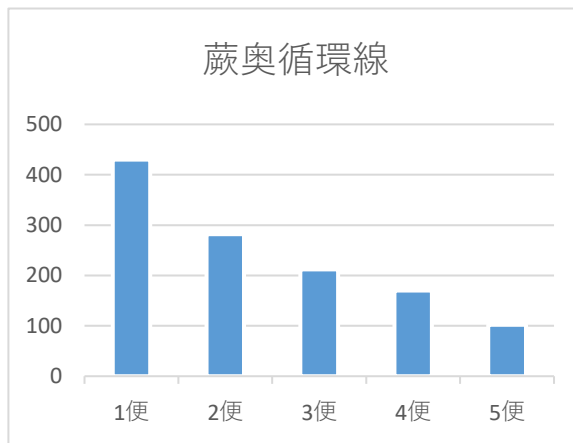
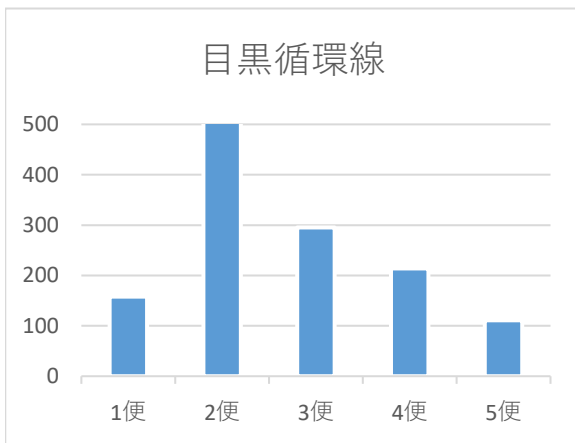
（人）

路線	年度							合計
	月	火	水	木	金	土		
目黒循環線	239	248	232	177	275	161	1,332	
蕨奥循環線	186	236	208	213	257	96	1,196	
葛川線	110	99	91	60	126	37	523	
上家地線	164	160	151	166	159	56	856	
合計	699	743	682	616	817	350	3,907	

5 令和5年度便別利用者数（4月～9月末）

（人）

路線	年度					合計
	1便	2便	3便	4便	5便	
目黒循環線	158	554	295	214	111	1,332
蕨奥循環線	430	282	212	170	102	1,196
葛川線	326	197				523
上家地線	584	171	101			856
合計	1,498	1,204	608	384	213	3,907



コミバスの利用人数（詳細）

〔人〕

	目黒循環線		蕨奥循環線		葛川線		上家地線		合計			参考	
	利用人数	うち免除者	利用人数	うち免除者	利用人数	うち免除者	利用人数	うち免除者	利用人数	うち免除者	免除者比率	免許返納者数	無料券所持者数(※)
H26	7,330	825	4,983	1,586	1,578	8	978	150	14,869	2,569	17%	13	-
H27	6,978	892	4,763	1,358	1,523	7	1,491	76	14,755	2,333	16%	14	-
H28	6,317	839	4,399	1,292	1,289	37	1,630	270	13,635	2,438	18%	20	16
H29	6,093	767	4,539	1,292	1,276	53	1,484	297	13,392	2,409	18%	27	25
H30	5,208	1,199	4,651	1,797	837	168	1,565	320	12,261	3,484	28%	21	30
R1	5,220	911	3,933	1,303	838	175	1,924	449	11,915	2,838	24%	39	43
R2	2,552	421	2,614	1,106	606	157	1,206	432	6,978	2,116	30%	12	45
R3	2,512	260	2,533	1,237	848	167	1,565	661	7,458	2,325	31%	16	40
R4	2,587	229	2,350	903	945	279	1,683	606	7,565	2,017	27%	25	40
R5(~R5.9)	1,332	125	1,196	501	523	161	856	395	3,907	1,182	30%	-	-

※高齢者運転免許自主返納事業の申請者（要件を満たす申請者に対し、コミバス無料券及び森の国ぽっぽ温泉入浴半額券を交付する事業）（防災安全課事業）

高齢者外出支援事業

1 事業概要（令和5年度予算：2,242千円）

- (1)実施主体：松野町（平成30～令和元年度に実証事業を実施し、令和2年度より事業開始）
- (2)補助対象者：自動車運転免許証を自主返納された65歳以上高齢者
自動車運転免許証の交付を受けていない65歳以上の高齢者
自動車を所有（使用も含む）していない65歳以上の高齢者
※ただし、町内在住者に限る。
- (3)補助内容：タクシー料金
- (4)補助金額：1回の乗車につきタクシー料金の半額を超えない金額
- (5)補助限度額：24,000円／年（2,000円×申請月から3月までの月数）
- (6)利用区間：松野町内に限る
- (7)利用券額面：1枚100円

2 事業実績

(1)地区別申請者数及び交付枚数

	令和4年度		令和5年度	
	申請者数（人）	交付枚数（枚）	申請者数（人）	交付枚数（枚）
松丸	12	2,460	8	1,060
延野々	7	1,080	8	1,220
豊岡	13	1,850	12	1,990
富岡	10	1,370	10	1,450
上家地	3	520	0	0
目黒	7	1,360	6	1,000
吉野	38	7,140	39	6,110
蕨生	13	2,020	13	2,030
奥野川	9	2,160	11	2,240
合計	112	19,960	107	17,100
利用枚数	—	6,584	—	3,098
利用率	—	32.99%	—	18.34%

※令和5年度は10月27日時点

(2)年齢別申請者数（人）

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	合計
令和4年度	3	10	9	28	62	112
令和5年度	2	10	9	23	63	107

※令和5年度は10月27日時点

（参考：松野町の人口等）

時点	総人口（人）	65歳～69歳（人）	70歳以上（人）
R4.4.1	3,725	358	1,379
R5.4.1	3,649	320	1,385

高校生等鉄道・バス通学定期券購入補助事業

1 事業概要（令和5年度予算：1,000千円）【令和5年度より事業開始】

- (1)実施主体：松野町
- (2)補助対象者：町外に通学するため通学定期券を年間1万円以上購入する
高校生等又は同一世帯の保護者
※ただし、町内在住者に限る。
- (3)補助内容：通学定期券の購入費補助
- (4)補助金額：定額1万円（申請は年1回のみ） ⇒ 来年度から拡充を検討
- (5)対象事業者：四国旅客鉄道株式会社・宇和島自動車株式会社

2 事業実績（令和5年10月27日時点）

(1)学校別

学校名	利用人数（人）
宇和島東高等学校	8
宇和島南中等教育学校	3
北宇和高等学校	15
吉田高等学校	1
合計	27

(2)対象事業者別

対象事業者	利用人数（人）
四国旅客鉄道株式会社	26
宇和島自動車株式会社	1
合計	27

(3)区間別

区間	利用人数（人）
松丸～宇和島	8
松丸～近永	13
吉野生～宇和島	3
真土～近永	2
バスセンター～吉田高校	1
合計	27

(4)期間別

期間	利用人数（人）
1か月	1
3か月	14
6か月	12
合計	27